

とんぐい村の こみ・すく通信

令和3年10月11日発行 第14号

更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

みんなの学校応援団の活動を紹介<その9>

農業体験 食を支える職業

9月13日、更別中央中学校2年生が勢雄区の穴戸農場で、カボチャの収穫を体験しました。これは、2年生が7月に実際に草取りをしたカボチャ畑です。

事前に雨が降り、埃もたらずカボチャの収穫には最高の天気でした。生徒たちはよく働き、1時間ほどで軸を切ってあったカボチャを17コンテナ(1個に600kg入る)に集めました。また後半には畑の一角で、実際に自分たちでカボチャの軸を切って収穫する体験もしました。



こんなにたくさんとれました!

早速、更小児童玄関前にジャンボカボチャのランタンが登場。



カボチャの種類は「ほっこり」です。美味しそう!

これだけのカボチャを家族だけで収穫するのは大変だろうなあ。



生徒が特に勉強になったのは穴戸さんのお話です。「大工をしていたが、自分の家族を養うために親の農業を継ぐことになった。自分の好きなことや収入が多い職業に就くのが良いのだろうが、理想と現実は違う。今はしっかりと勉強をして何事にも一生懸命やってみることが大事。失敗してもやれることをやっていくこと。」

また、農業の仕事についても教えていただきました。生徒の心に響くものになりました。

貴重な体験ムックリ作りと演奏

10月5日、上更別小学校3~6年生が、北海道の心るさと教育の一環として、アイヌ民族に伝わる竹製の楽器(口琴)のムックリづくりと演奏に取り組みました。

外部講師としてアイヌ民族協会から、講師2人が来校し、ムックリのつくり方、演奏の仕方を子どもたちに丁寧に指導してくれました。「自然の音や小鳥の鳴き声などを表現するためにムックリが生まれた。努力して自分なりの音が出せるようになって。」とお話してくださいました。



ムックリは動かさず、息を吹きかけながら糸を引っ張ってみて!